CASSIOPEIA NKANI

Vol. 34 August 2024

CASSIOPEIA－UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

JICA　ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト

カニャマー一次レベル病院のサテライト薬局で、オリパ・ムレンガ氏が同僚たちに薬剤チャートを説明している様子。左から：セーフ・ムソンダ氏、オリパ・ムレンガ氏、ブレッシングス・カザマ氏、ユニス・ナンベエ氏。

サテライト薬局の開設

ルサカ地区で看護交換プログラムを実施中

フォトフォーカス

サテライト薬局の開設

入院病棟のメモリー・ムウェンバ氏と、カニャマー次レベル病院のサテライト薬局の薬剤師、オリパ・ムレンガ氏。

ザンビアの一次レベル病院として初めて、カニャマ病院がサテライト薬局を開設しました。サテライト薬局とは、入院病棟近くに設置され、入院患者に直に接し、医師や看護師の相談に対応しながら医薬サービスを提供する部署です。現在、このサテライト薬局は10個の病棟を担当し、1日平均90人の患者に薬を提供しています。

サテライト薬局を一次レベル病院に開設する構想は、JICAの国別研修に参加した薬局長ユニス・ナンベエ氏と他の薬剤師たちが合意した行動計画に端を発します。研修に参加した薬剤師たちは、入院患者に対する医療提供のあり方に改善の余地があると考え、処方された薬を患者に提供する方法を変更することを決めました。

カニャマ病院のサテライト薬局の責任者であるオリパ・ムレンガ氏（薬剤師）は、調剤方法が変わることで、患者と看護スタッフにどのような利益がもたらされるかを説明しました。医薬品は、医薬品チャートに基づいて調剤されていますが、サテライト薬局は集中治療室(IPD)の近くにあるので、病棟薬局の巡回が容易になり、また患者に処方された薬の結果を確認しやすくなります。

次ページへ続く

カニャマー次レベル病院のサテライト薬局にて、薬局部門長のユニス・ナンベエ氏と看護師長のブレッシングズ・カザマ氏。

女性入院病棟で、薬剤師のオリパ・ムレンガ氏とチムカ・ハンゴンバ氏が患者の薬剤記録を確認している様子。

カニャマー次レベル病院の10病棟に配布される薬品を管理するために、薬品と在庫管理カードが設置された棚。

女性入院病棟での薬局回診中のチムカ・ハンゴンバ氏と薬剤師のオリパ・ムレンガ氏。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

入院病棟の看護師長であるカザマ氏は、サテライト薬局の利便性をすでに実感しています。まず、中央薬局までの道のりは患者さんたちで混雑していますが、サテライト薬局があればそこを通らなくてもよく、処方箋調剤にかかる時間が短縮できました。薬にアクセスしやすくなったので、病棟でもっと時間を過ごせるようになりました。薬剤師も処方箋をフォローアップしやすくなっています。

薬局部門の責任者であるユニス・ナンベエ氏は、同僚の意見に賛成しつつも、はじまったばかりのサテライト薬局には課題が山積していると言います。まず、サテライト薬局は人手不足です。配置されている薬剤師は1人です。夜間に収容された患者に対応できる薬剤師がいなかったことがあります。担当薬剤師が病欠や休暇で不在のときに、代わりに業務を継続できる者がいないことも心配です。

調剤室の薬剤師であるセーフ・ムソンダ氏も同意見です。サテライト薬局が24時間年中無休のサービスとなって、入院患者全員に対応できるとよいと言います。そして、サテライト薬局が開設されたことで、医療過誤が減少したと考えています。注射薬の管理責任者が明確になり、薬剤師が処方箋と薬を照合する時間的余裕ができたからです。

ルサカ州保健局の主任薬剤師であるアブラハム・ムケセラ氏は、医療の質に関わる薬剤師のこの取り組みを病院が支援していることを歓迎しています。患者に投与される薬の処方確認には、いくつかのステップが必要ですが、サテライト薬局が投薬エラーを減らし、患者安全に寄与するというカニャマ病院の意見にも賛成しています。加えて、患者が薬を入手できるまでの時間が改善されたとも述べました。

薬剤師セーフ・ムソンダ氏、サテライト薬局の薬剤師オリパ・ムレンガ氏、薬局部門長のユニス・ナンベエ氏、入院病棟の看護師長ブレッシングズ・カザマ氏。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

ルサカ地区で看護人材交流プログラムを実施中

大学教育病院(UTH)は、看護師の人材交流プログラムにより、ルサカ州内の病院の看護部長と看護師を受け入れています。事の発端は、先月ルサカ州保健局(LPHO)で開催された四半期看護責任者会議でした。

チャワマ病院のロレイン・チコンカ氏（看護師）は、8月26日から30日までUTHの業務を見学しました。UTH成人病院での経験は非常に有益だったと言います。訪問した病棟のスタッフは自主的に働いていました。また、適時に一貫した方法で報告書が提出されていました。例えば、夜勤の責任者は、翌朝の交代勤務のときに、前日の病院の状況を交代スタッフに報告していました。また、UTHの感染予防対策チームがさまざまな部署で毎日抜き打ち検査を行っている点は、チャワマ病院とも類似していると述べました。

UTH成人病院の医療サービス主任看護師であるリンダ・ムソンダ氏は、このプログラムの一員として関われたことを光栄に感じるとともに、病院間のさらなる連携の必要性を強調しました。他の施設を訪問し、多くの主任看護師や担当看護師と交流できることを楽しみにしています。

プログラムに参加したカニャマ病院のアイリーン・シラベ氏（看護師）は、UTH小児病院に配属されました。看護師が管理すべき項目に幅広く取り組む同病院のスタッフの姿勢と指導力を称賛しました。毎日のマネジメント会議は、対面で開催され、警備部門からトップマネジメントまで全員が参加していました。また、毎日多数の患者が来院しても、病院の環境が清潔なことを称賛していました。

UTH小児病院のエメルダ・ニャンベ氏（シニア看護師）は、交流プログラムで、時間を厳守し、病棟の見回りや薬の在庫確認などの活動と研修に参加したシラベ氏の仕事ぶりを称賛しました。ニャンベ氏は、主任看護師や担当看護師が互いに学び合い、異なる施設での優れた実践例を共有できるこの重要な取り組みを考案した州保健局の主任看護師のイヌトュ・バングウェタ氏に感謝の意を表しました。

チャワマ一次レベル病院の看護官ロレイン・チコンカ氏と、ルサカ州保健局の主任看護師イヌトゥ・ムバングウェタ氏。UTH成人病院にて。

イヌトゥ・ムバングウェタ氏、カニヤマ一次レベル病院の看護師アイリーン・シラヴェ師、UTH小児病院の看護師エメルダ・ニャンベ氏。

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District

PHOTO FOCUS

マテロー次レベル病院で、感染予防管理（IPC）のニャンガ専門家がIPCチームと共に感染予防管理の回診を行っている様子。

UTH成人病院の看護師が、患者のサポートのための機械をルサカ州保健局のイヌトゥ・ムバングウェタ氏に紹介している様子。

UTH小児病院の看護師長が病棟で使用される緊急トロリーを紹介する様子。

マテロー次レベル病院を視察訪問する日本の学生たち。

UTH小児病院の管理チームとアイリーン・シラヴェ氏とイヌトゥ・ムバングウェタ氏。

マテロー次レベル病院（FLH）での第3回感染予防管理回診時、学生たちの爪の長さや装飾品の有無を確認している様子。

日本からマテロー次レベル病院へを訪問した学生視察団。

編集・デザイン：コンベ カパタモヨ
編集：緒方 敬
編集長：村井 真介

連絡先
村井 真介 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所：Plot No.11743A, Brenwood Lane, Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101, ZAMBIA
Cell: +260 765 192 865 (official)

© JICA - The Project for Strengthening Management Capacity of the General Hospitals in Lusaka District